

中学校教科等研修講座(道徳)

教科等指導員 荒牧中学校 教諭 兼山 美由紀

担当指導主事：水津 和雅

キーワード：小中連携 道徳の教科化 評価

1 実施概要

実施月日	司会・助言	場所・形態	演題(またはテーマ)
1月17日(金)	荒牧中学校 兼山 美由紀 教諭	総合教育センター ワークショップ	「道徳の授業力アップにむけた指導 方法の改善について」

2 主な内容

(1) 設定の理由

講演会で話を聞いたり、読み物教材の分析をしたりするだけでなく、率直に悩みを出し合い、他校の教員と日々の実践を交流する機会を作りたいと考え、設定した。

(2) 参加者とグループ分け

小・中学校からの参加者を3グループに分け、ワークショップを行った。

(3) テーマ決定

日々の道徳授業で悩んでいること、困っていることを全員で出し合い、共通する内容をテーマに設定し、研修を深めた。

(4) 交流

グループ交流の後、全員で交流し、助言を行った。

① 「児童生徒から意見を出させ、深めるために」

- ・クラスの状況や児童生徒の考えを、ワークシートの記入内容や机間指導等でしっかりつかみ、授業の組み立てを考えて指名順等を定める。
- ・個人で考え、書かせる時間を確保し、できるだけ多くの児童生徒に発表させる。
- ・「個人→ペアやグループ→全体」の流れで行い、その日の児童生徒の意見を生かす。
- ・教材研究を丁寧に行い、自分なりにその教材に対する見解を持つ。
- ・教員の予想を超える意見を逃さないようにする。

② 「読み物教材以外の教材(授業)の工夫」

- ・ゲストティーチャー。
- ・行事や生活に根ざした教材。
- ・地震関連の教材や指導。
- ・互いのいいところを見つける教材。



3 成果と課題

(1) 成果

- ① 日々の道徳授業での率直な悩みや実践の工夫について、交流しあう機会を持つことができた。
- ② 小学校教員の参加により、全グループで小中の交流ができ、児童生徒の状況の違いや苦勞の違いを知ることができた。
- ③ 教材研究を丁寧に行うことと、一人ひとりにしっかり意見を持たせ、それをまとめあげていくことの大切さを考えることができた。
- ④ 読み物教材以外の教材についての実践を交流することができた。

(2) 課題

- ① 道徳の教科化に向けての交流（評価のしかたなど）等、現場の教員のニーズにあった講座を検討していく必要がある。
- ② 小中連携のために、担当者会や研修講座等で、授業の具体的な指導について他校の実践等を交流する機会を持つ必要がある。